

# 知行合一

学校教育目標

潤いと輝きにあふれる学校

芦北町立田浦中学校  
学校だより 第13号  
令和元年9月12日  
文責 校長 畑口益喜

奥山にもみぢふみわけなく鹿の 声聞く時ぞ秋はかなしき  
猿丸太夫(百人一首5)

## 魅せた田浦中魂！陸上競技大会

水俣市のエコパーク陸上競技場で郡市中学校陸上競技大会が開催され、田浦中からは選手・役員47名が参加しました。女子中・長距離の部は今年も大健闘。郡市で2番目に生徒数の少ない学校ですが、2位に輝きました。オープン競技の女子800m走での1・2・3フィニッシュはとてまかっこよかったですね。男子も中・長距離の部は3位に入り、郡市駅伝大会・三太郎駅伝大会に向けて弾みがつきました。田浦中からは写真の5名が1位に輝きました。おめでとう！

天候に恵まれすぎ、日差しが強く、気温も上がる中でしたが、競技、応援はもちろん、会場の片付けにも最後まで頑張りました。



### 調理実習

8月29日(木)、1年生は調理実習でハンバーグを作りました。中学校の家庭科では煮る、焼く、炒めるの加熱料理を学びます。校長室にも「はんばあ〜ぐ！」の声とともに試食が届きました。

外はカリっと、中もカリっと。ソースもばっちり、おいしくいただきました。「星！3つです！」勉強は復習が大事。ご家庭でもぜひ「晩御飯は任せた！」の一言をお掛けください。

## 3年生保育実習

5日(木)、3年生は田浦保育園で家庭科の保育実習を行いました。事前学習では、どうしたら園児に楽しんでもらえるかを考え、釣りゲームなどの遊び道具をつくり、当日は園児以上にノリノリだったようです。「(自分たちが)ハイテンションだった。」との声も聞こえてきました。



※日々の生徒の姿は、ホームページ「学校生活(令和元年度)」を随時更新中！ぜひご覧ください。

また、「学校だより」「フログ」などは、ホームページからダウンロードすることができます。

**【秘密の部屋】 昨年の9月12日が第1話、休まず365回書き続けることができました。**

**【好き嫌い】 010829**

「お父さん、お母さんは好き嫌いはないか。」と息子から聞かれたことがあります。私が食べないのはナマコくらいですが、ナマコは好き嫌いの範疇に入れるような食材ではありません。

「親が好き嫌いがないと、子どもも好き嫌いがないらしい。」というのが会話の結論でした。妻が土・日は勤務の仕事に就いているため、早く帰った方がご飯を作るが当たり前。子どもたちのご飯もよく作っていました。

人吉に勤務していた頃は、子どもたちも小さかったので、金曜の夜に田浦に連れて行き、部活が終わった日曜の午後から迎えに行くという生活をずいぶんしていました。子どもに今日何を食べたか聞いたところ「いそぎんちゃくを初めて食べた。」と答えた時には驚きました。好き嫌いなくワイルドに育ちました。(H)

**【好きこそ物の上手なれ】 010906**

校内を巡回していると、2年生は国語「枕草子」の授業をしていました。「春はあけぼの～」で始まる清少納言の随筆で、私と同世代の方は授業中に暗唱した記憶があるのではないのでしょうか。社会科を教えていたずっと以前は、学力検査等も知識を問う出題が多かったため、「紫式部」と混同しないように「枕の掃除（草紙）で清（清少納言）潔に！」と教えていました。知識の注入で、音として残るだけです。

国語担当のH先生から聞こえたのは「春は“三色団子”、夏は“かき氷”、秋は“きのこの山”、冬は“雪見大福”」という言葉。枕草子を下敷きにして、子どもたちそれぞれが感じる春夏秋冬の「をかし」、「あはれ」、「わろし」を随筆にした「令和版枕草子」だそうです。Mさんの作品の「きのこの山」は「お菓子」、本来の「をかし」に掛けるとは、なかなかユーモアのセンスがあります。

全国学力・学習状況調査のアンケートで「国語の勉強が好き」と回答した生徒は全国平均をはるかに上回っていました。結果も良好。好きこそ物の上手なれ。

ちなみに、数学も同様のアンケート結果でした。たぶん、「三角形はおにぎりせんべい。」と教えています。田浦中の国語も数学もいとをかし。(H)

**【重陽の節句】 010909**

今日は季節の節目となる五節句の一つ、重陽（ちょうよう）の節句（菊の節句）です。古代中国では奇数を陽、偶数を陰と考えたので、縁起の良い奇数の中で最も大きい数字が重なる9月9日は重陽ということになります。菊酒を飲んだり、栗ご飯を食べたりして無病息災や長寿を願ったそうです。

重陽の節句と聞くと、「雨月物語（上田秋成）」の中の「菊花の約（ちぎり）」という話を思い出します。

出雲へ密使として旅の途中、病に倒れた宗右衛門は、左門に助けられました。それを縁に意気投合、義兄弟となった2人でしたが、宗右衛門はどうしても果たさなければならない役目がありました。「重陽の節句に戻ってくる。」と約束をして旅立った宗右衛門でしたが、役目を終え、出雲を去ろうとしたときに捉えられてしまいます。約束の日が近づきますが、牢から出してもらえないような様子はありません。

ついにその日。準備をして待つ義弟の左門でしたが、夕方になっても義兄、宗右衛門の姿は見えません。左門の母は、家に入りまた明日待てばよいと促しますが、左門は「兄上は信義ある武士だから、決して約束を破ることはない。」と待っています。

ついに、日も落ちあきらめて家に入ろうとしたときに、風に吹かれる陽炎のようにやってくる人影が…。

「雨月物語」には怪異小説9編が収められています。秋の夜長に、読書はいかがでしょう。(H)